日本システムバンク（福井）

名証「メイン」に来月上場

コインパーキング運営の日本システムバンク（本社福井市中央3丁目、野坂信嘉社長）が名古屋証券取引所の「メイン市場」に4月14日、新規上場する。県内企業の名証上場は、東証と重複上場している日華化学、フクビ化学工業（ともに福井市）に次いで3社目。

上場承認は3月10日。名証メイン市場は旧2部に当たる。野坂社長は、福井新聞の取材に「名証は個人投資家向けIR（広報）に力を入れており、当社の『地元を中心にファンづくりしていきたい』という思いと合致し、ファーストステップとして選択した。上場で知名度と信用力を高め、コインパーキング事業の展開スピードを上げていきたい」と話した。

同社は1996年設立。「駐車場管理の総合商社」としてコインパーキングの直営と土地所有者向けの駐車場機器の販売・保守を手がけ、2023年1月末時点で全国7344カ所、約13万2千台の駐車場・駐輪場を展開している。

また、独自のスマートフォンアプリ「SmooPA」を提供。利用料金の決済機能や駐車場の検索機能があり、23年1月末時点の累計ダウンロード数は約11万2千件、アクティブユーザー数は1万7千人超に上る。

22年6月期（連結）の売上高は67億7600万円、経常利益は3億4千万円、純利益は1億7900万円。福井と東京都に本社を構え、全国14支店、子会社3社がある。同社によると、都市部を中心に慢性的な駐車場不足が続く中、今後もコインパーキングの直営や管理受託はさらに拡大できるとしている。カーシェアリングや電気自動車（EV）の充電スタンドなどの普及にも力を入れる方針。

上場に伴い、10万株の公募と5万株の売り出し、2万2500株を上限とするオーバーアロットメントによる売り出しを行う。調達資金は直営駐車場の開設や機器の入れ替えなどに充てる予定。（青木伸方）